

校長室の窓から

No.12

平成26年12月25日

尼崎市立武庫東中学校

校長 小谷 豪 郎

2学期 終業式 特別編

3年生の皆さん、先週までの3者懇談で進路先の最終決定に到着しましたか？

とりあえず決めておいて、私立高校の事前相談の結果を見てから次を考えると、とにかく公立一本勝負だとか、行き先が決まらないまま年を越して新年を迎える、なんてことはありませんよね。

学校の選択方法は間違っていないですか。友達が行くから同じ学校へ行きたいとか、公立高校の一般受験は5教科だから、受験教科の少ない私立高校で楽したい。3月まで受験勉強に追われるのは大変だから、推薦で早く決めておきたい。ここの部活動なら厳しくなくて楽そうだから。といったような安易な選択をしていませんか？

自分自身が将来どの方向へ進むのか、自分の良さをさらに引き出してくれるのは本当にこの学校なのか、3年間精一杯取り組んで自分を鍛えていける部活動があるのか、就職に向け十分な資格取得に取り組んで行けるのか等、じっくりと考えて選択できましたか。15歳で人生の選択を迫られる、とても大変なことだと思いますが将来社会の中で生きていくためにも、自分自身を振り返り将来を見据えて新しい道を切り開いて行く姿勢を大切にしてください。

君たちには、選べるほどの沢山の選択肢があります。このことがどれくらい恵まれたことか改めて考えて下さい。だからこそ安易な選択ではなく、家庭や先生と十分に話し合い検討して将来を見据えた選択をしていって欲しいのです。

ノーベル平和賞・受賞演説

12月10日ノーベル平和賞に選ばれた、パキスタンのマララ・ユスフザイさんの事は皆さんも知っていますね。タリバーンの武装テロリストに通学途中のバスが襲われ銃撃され頭部に銃弾を受け奇跡的に生き残った少女です。その授賞式での演説の一部を紹介します。

今回の賞は私だけの物ではありません。教育を望みながら忘れ去られたままの子どもたち、平和を望みながら脅かされている子どもたち、変化を求めながら声を上げられない子どもたちへの賞なのです。

一中略一

観光と美の町だったスワートは突然、テロリズムの地になってしまいました。400以上の学校が破壊され、女性はムチで打たれました。多くの人々が殺され、私たちの町は悪夢の町へと変わっていったのです。

一中略一

インドやパキスタンのような多くの国で、社会的なタブーのために多くの子どもたちが教育を受ける権利を奪われています。児童労働や女児の児童婚が強制されています。私の級友も医師になることを夢見たいましたが、12歳で結婚を強いられ14歳で男の子を産みました。まだまだ彼女自身が子どもでした。

一中略一

私はノーベル賞の賞金をマララ基金に捧げます。この基金は、女の子たちがあらゆる場所で質の高い教育を受けられるよう援助し、声を上げるのを助けるものです。最初の使い道は、私が心を残してきた場所パキスタンに、特に故郷のスワートとシャングラに、学校を建てることです。

私の村には、今も女子のための中学校がありません。私の友達や姉妹たちが教育を受け入れることができ、ひいては夢を実現する機会に手を入れることができるように、中学校を建てたい。これが私の願いであり、義務であり、今の挑戦です。

一中略一

どうして「強い」と言われる国々は戦争を生み出す力がとてもあるのに、平和をもたらすにはとても非力なの？

なぜ銃を与えるのはとても簡単なのに、本を与えるのはとても難しいの？

戦車を造るのはとても簡単で、学校を建てるのがとても難しいのはなぜ？

一中略一

空っぽの教室、失われた子供時代、無駄にされた可能性を目にすることを「最後」にすることを決めた、最初の世代になりましょう。

男の子も女の子も、子ども時代を工場で過ごすのは終わりにしよう。

少女が児童婚を強いられるのは終わりにしよう。

罪のない子どもたちが戦争で命を失うのは終わりにしよう。

教室が空っぽのままなんて終わりにしよう。

こんなことは、私たちが最後にしよう。

この「終わり」を始めましょう。

皆さんは、どう思いますか？

この演説の後、14日ナイジェリアのイスラム過激派「ボコ・ハラム」が村を襲撃して女性や子どもを180人以上拉致、16日にはパキスタンで「タリバーン」が学校を襲撃して150人近い子どもたちに無差別に銃弾を浴びせ虐殺しました。

さらにこのグループは、今後も襲撃を繰り返すという声明を出しているそうです。なぜ弱い立場の女性や子どもを標的にするのか、今後もこのニュースからは目が離せません。遠く離れた国のこと・・・ではなく無力ではありますが、心に留めておいて欲しいです。

《今月のことば》

『 Let's begin this ending 』

マララ・ユスフザイ

こんなことは、私たちが最後にしよう

この「終わり」を始めましょう